



第72期中間報告書

2013年4月1日 ▶ 2013年9月30日



ロジン(松脂)

P1	株主の皆様へ
P2	中間連結業績
P3	中間連結財務諸表
P7	主要4事業の概要
P9	ハリマ化成グループの グローバルネットワーク
P11	株式および株主の状況
P12	会社概要
P13	株主メモ

ハリマ化成グループ株式会社

証券コード：4410

平素は当社に対し格別のご配慮を賜り厚く御礼申し上げます。

さて、2013年4月1日から同年9月30日までの第72期中間期の事業の概況につきましてご報告申し上げます。

当中間期における世界経済は、米国では金融緩和策の継続により緩やかな回復基調が続いたものの、欧州における債務問題の長期化による低迷や中国等の新興国経済の成長鈍化などにより、全体として低迷した状況が続きました。一方、日本では政府の経済・金融政策を背景とした、円安・株高などが進み、輸出環境や企業収益の改善が見られるなど、景気は緩やかに回復へと向かいました。

当社グループを取り巻く経営環境は、欧州景気低迷の影響を受け、欧州を主力市場とするローター社の業績が、依然として厳しい状況ですが、円安の影響により海外売上高が増加しました。一方、海外から調達している当社の主原料が円安の影響で価格が上昇し、製品価格への転嫁に努めましたが、国内業績は厳しい状況が続きました。

その結果、当社の当中間期の連結業績につきましては、売上高は360億3千万円となり、前中間期に比べ31億2千3百万円(9.5%)の増収となりました。

利益面では、営業利益は3億2千7百万円で前中間期に比べ1億1千6百万円(△26.2%)の減益となりました。経常利益は、為替差益4億1千6百万円により、7億9千8百万円(前中間期は経常損失2億1千5百万円)となりました。特別損失として、固定資産売却損を4億2千5百万円計上したことにより、四半期純損失は1億9千8百万円と前中間期に比べ3億3千5百万円の改善となりました。

今後の見通しにつきましては、世界経済は、緩やかながらも上昇すると見込まれますが、欧州の債務問題や米国の金融緩和策の影響、中国経済の先行きなど不透明な状況が続いております。日本においては、昨年末から円安進行による輸出環境の改善や政府の経済対策効果への期待などにより、企業業績に回復の兆しがあるものの、当社グループにとりましては不透明な事業環境が続くことが見込まれます。

当社グループでは、さらなる経費の削減、円安に伴う原料調達価格上昇分の製品価格への早期転嫁など、全従業員一丸となって業績回復に向けて取り組んでおります。

株主の皆様におかれましては、今後とも変わらぬご支援、ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。



代表取締役社長 長谷川 吉弘

■ 中間連結業績

(単位：百万円未満切捨)

売上高 **360億30**百万円
前年同期比 9.5%増

前中間期 32,906
当中間期 36,030

営業利益 **327**百万円
前年同期比 26.2%減

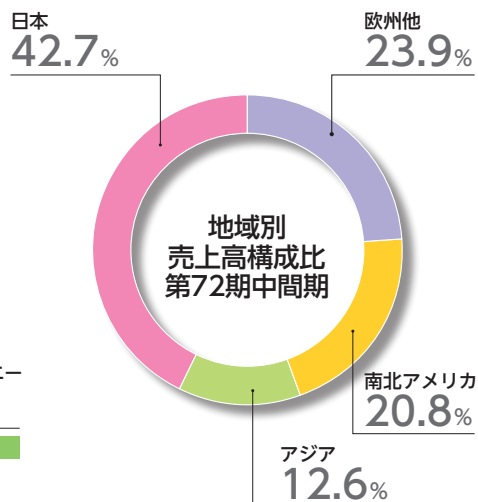
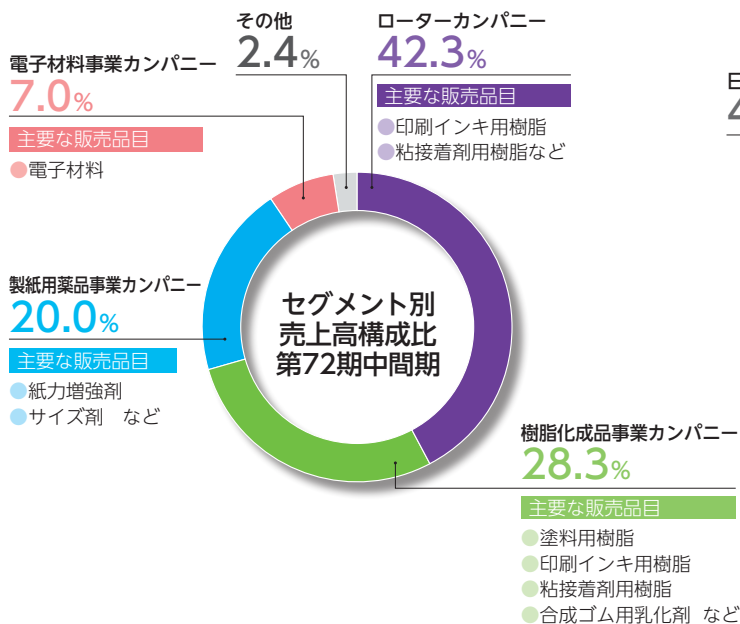
前中間期 443
当中間期 327

経常利益 **798**百万円
前年同期比 ー %

前中間期 △215
当中間期 798

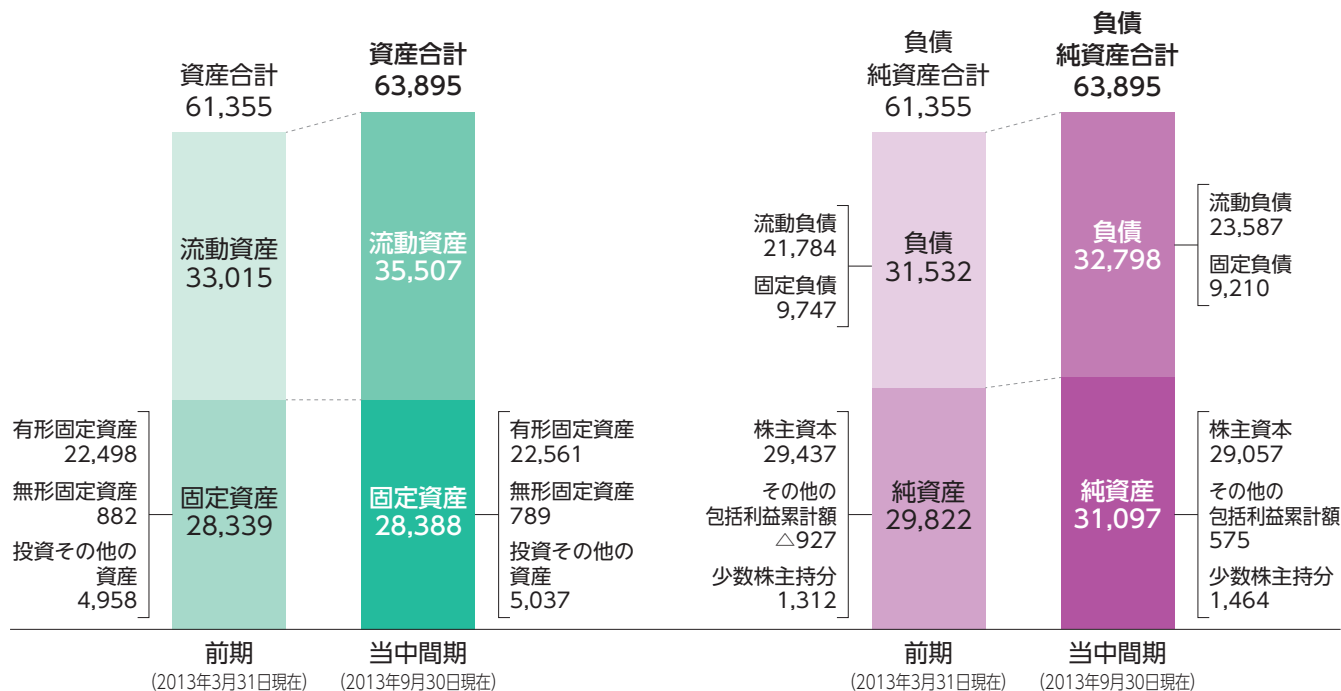
四半期純損失(△) **△198**百万円
前年同期比 ー %

前中間期 △534
当中間期 △198



中間連結貸借対照表の概要 (単位：百万円未満切捨)

科目	期別	前期 (2013年3月31日現在)	当中間期 (2013年9月30日現在)	科目	期別	前期 (2013年3月31日現在)	当中間期 (2013年9月30日現在)
資産の部				負債の部			
流動資産		33,015	35,507	流動負債		21,784	23,587
現金及び預金		3,474	4,687	支払手形及び買掛金		6,854	7,845
受取手形及び売掛金		17,542	17,899	短期借入金		8,662	9,743
商品及び製品		5,012	4,666	1年内返済予定の長期借入金		1,736	1,790
原材料及び貯蔵品		4,243	5,319	未払法人税等		648	605
その他		2,865	3,040	役員賞与引当金		-	21
貸倒引当金		△122	△105	その他		3,882	3,581
固定資産		28,339	28,388	固定負債		9,747	9,210
有形固定資産		22,498	22,561	長期借入金		6,014	5,340
土地		10,664	10,150	長期預り保証金		934	866
その他		11,833	12,411	退職給付引当金		868	947
無形固定資産		882	789	役員退職慰労引当金		463	475
その他		882	789	資産除去債務		46	46
投資その他の資産		4,958	5,037	その他		1,419	1,533
その他		4,973	5,052	負債合計		31,532	32,798
貸倒引当金		△14	△14	純資産の部			
資産合計		61,355	63,895	株主資本		29,437	29,057
				資本金		10,012	10,012
				資本剰余金		9,744	9,744
				利益剰余金		9,742	9,361
				自己株式		△61	△62
				その他の包括利益累計額		△927	575
				その他有価証券評価差額金		509	808
				為替換算調整勘定		△1,437	△232
				少数株主持分		1,312	1,464
				純資産合計		29,822	31,097
				負債純資産合計		61,355	63,895



● 流動資産

商品及び製品の減少がありました。現金及び預金、原材料及び貯蔵品などの増加によって、前期末より24億9千1百万円増加し、355億7百万円となりました。

● 固定資産

無形固定資産の減少があったものの、有形固定資産、投資その他の資産の増加によって、前期末より4千8百万円増加し、283億8千8百万円となりました。

● 負債

未払法人税の減少があったものの、支払手形及び買掛金、短期借入金等の増加によって、前期末より12億6千6百万円増加し、327億9千8百万円となりました。

● 純資産

利益剰余金の減少があったものの、為替換算調整勘定等の増加によって、前期末より12億7千4百万円増加し、310億9千7百万円となりました。

中間連結損益計算書の概要 (単位：百万円未満切捨)

科目	期別	前中間期 (自2012年4月1日 至2012年9月30日)	当中間期 (自2013年4月1日 至2013年9月30日)
売上高		32,906	36,030
売上総利益		6,271	6,663
営業利益		443	327
経常損益 (△は損失)		△215	798
特別損益 (△は損失)		△39	△337
四半期純損失 (△)		△534	△198

●売上高

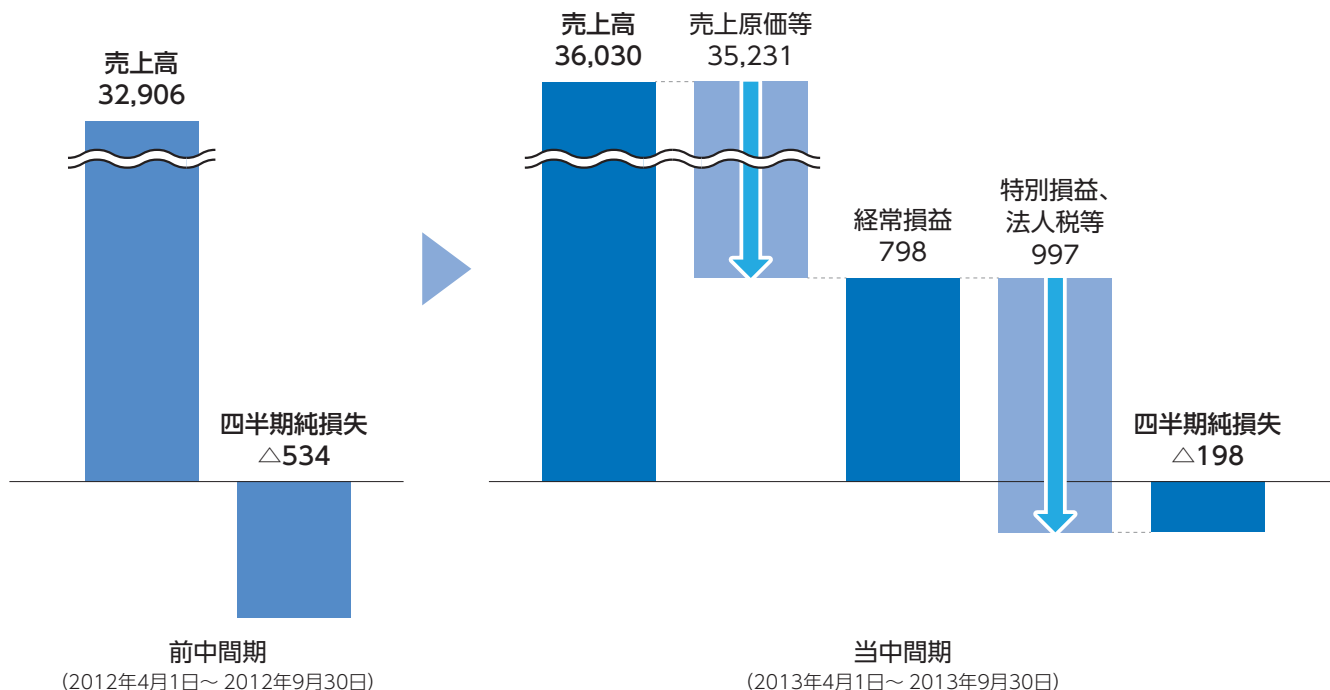
欧州を主力市場とするローターカンパニーが、欧州景気低迷の影響を受けつつも、円安の影響により、前中間期から31億2千3百万円増収し、360億3千万円となりました。

●営業利益

輸入原料の円安による調達価格上昇により、前中間期から1億1千6百万円減少し、3億2千7百万円となりました。

●経常損益

売上高の増収および為替差益が発生したことにより、前中間期から10億1千4百万円増加し、7億9千8百万円となりました。



中間連結キャッシュ・フロー計算書の概要 (単位：百万円未満切捨)

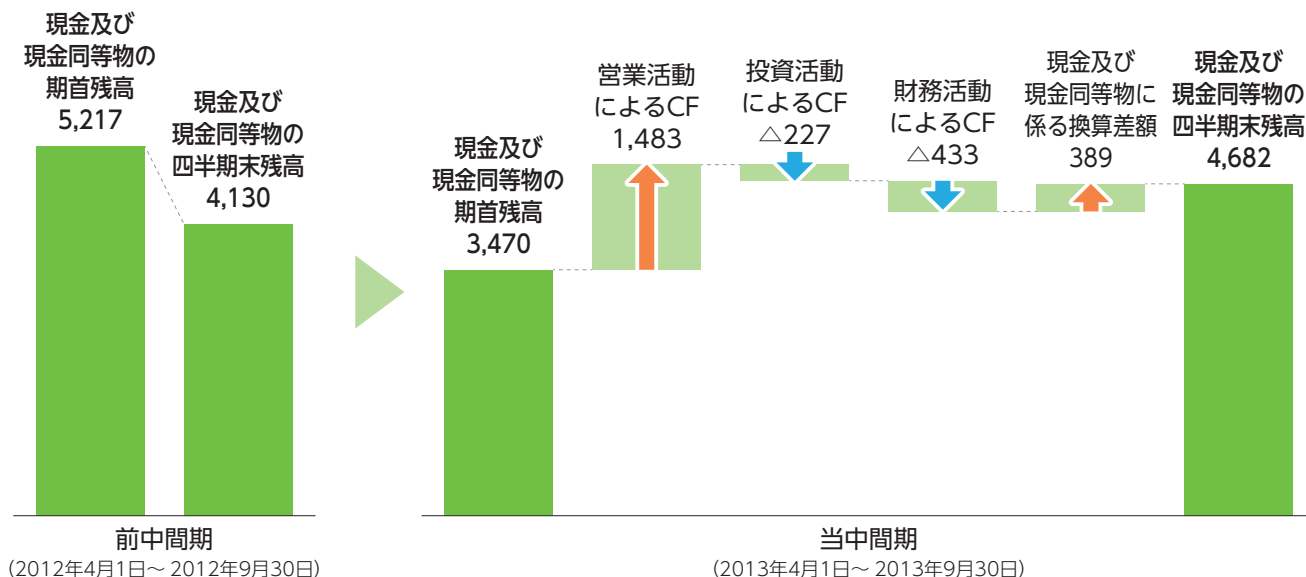
科目	期別 前中間期 (自2012年4月1日 至2012年9月30日)	当中間期 (自2013年4月1日 至2013年9月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー	1,525	1,483
投資活動によるキャッシュ・フロー	△971	△227
財務活動によるキャッシュ・フロー	△1,693	△433
現金及び現金同等物に係る換算差額	51	389
現金及び現金同等物の期首残高	5,217	3,470
現金及び現金同等物の四半期末残高	4,130	4,682

●キャッシュ・フロー

営業活動によるキャッシュ・フローは14億8千3百万円の収入となりました。これは主に仕入債務の増加や売上債権の減少などの増加要因によるものです。

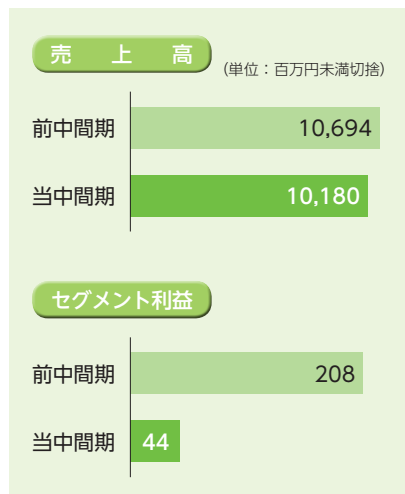
投資活動によるキャッシュ・フローは2億2千7百万円の支出となりました。これは主に有形固定資産の取得による支出などの減少要因と有形固定資産および投資有価証券の売却による収入などの増加要因によるものです。

財務活動によるキャッシュ・フローは4億3千3百万円の支出となりました。これは主に長期借入金の返済や配当金の支払いなどの減少要因と、短期借入金などの増加要因によるものです。



※CF：キャッシュ・フロー

樹脂化成品事業カンパニー

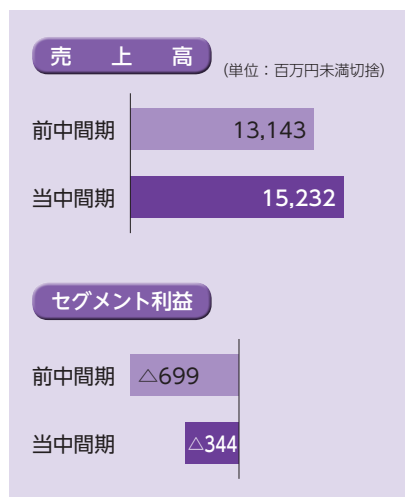


国内の印刷インキは、出版および広告印刷の低迷により、ロジンを原料とする平版インキの生産量が減少しましたが、印刷インキ用樹脂は前中間期並みの販売を維持しました。一方、中国も含め価格競争の激化により収益性が低下しました。粘接着剤用樹脂は中国国内において厳しい価格競争により伸び悩みました。塗料用樹脂は、新設住宅着工戸数や商業施設などの大型建築物が増加したことにより、販売数量が増加しましたが、原料価格上昇の製品価格への転嫁が遅れ、収益に影響を与えました。自動車タイヤ用合成ゴムの製造に使用される乳化剤は前中間期並みの販売で堅調に推移しました。

機能性塗工剤などの新製品は、タブレット端末用タッチパネルなどに用いられる光学フィルム用表面塗工剤を市場に投入し、成果が得られつつあります。

その結果、当部門の売上高は101億8千万円で、前中間期に比べ5億1千4百万円（△4.8%）の減収となりました。セグメント利益は4千4百万円と前中間期に比べ1億6千3百万円（△78.6%）の減益となりました。

ローターカンパニー



当部門の主要市場である欧州・北米では、主力市場である欧州が景気後退の影響を受け、印刷インキ用樹脂の販売は、引き続き厳しい状況で推移しました。

一方、粘接着剤用樹脂は、欧州、北米、南米、アジア、オセアニアで堅調に推移しました。

その結果、当部門の売上高は152億3千2百万円となり、円安の影響で、前中間期に比べ20億8千9百万円（15.9%）の増収となりました。セグメント損失は、コスト削減等により、3億4千4百万円と前中間期に比べ3億5千4百万円の改善となりました。

中間
売上
36,030

連結
売上高
の百万円

国内の紙・板紙生産量は印刷・情報用紙の生産量が、円安の影響を受け輸入紙が減少するとともに輸出が増え、当中間期以降は消費税増税前の駆け込み需要もあり、昨年までの減少傾向に歯止めがかかり、回復基調で推移しています。

中国の紙・板紙生産量は前中間期比で微増に留まり1月以降横ばいで推移しました。中国の製紙業界では、製紙メーカー間の競争がさらに激化し、製紙用薬品の競合もますます激しくなっています。

このような環境下、当部門では、米国、中国において業績は堅調に推移しましたが、国内では製紙会社におけるコスト削減対策の影響を受け使用薬品の低減により販売量は伸び悩みました。

その結果、当部門の売上高は71億9千7百万円で、前中間期に比べ11億5千1百万円（19.1%）の増収となりました。

セグメント利益は円安による原料価格の上昇を製品価格へ転嫁が進まなかったことから、2億4千1百万円と前中間期に比べ1億1千9百万円（△33.0%）の減益となりました。

当部門が関連する自動車業界の当中間期における国内自動車生産台数は、前中間期比で減少したまま推移しましたが、米国、中国での生産台数は好調であり、世界の自動車生産台数は、前中間期比微増となりました。

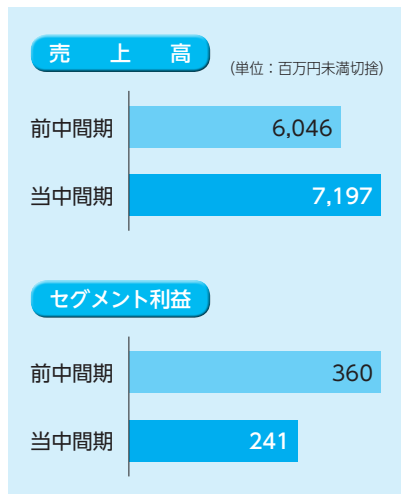
一方、民生用機器の国内出荷は、対前中間期比で減少し、特に映像機器の落ち込みが大きく影響しました。

このような厳しい環境でしたが、当部門の国内売上高は自動車用熱交換器に使用されるアルミニウム用ろう材ペースト、新規導電性ペーストの販売増により、増収増益となりました。

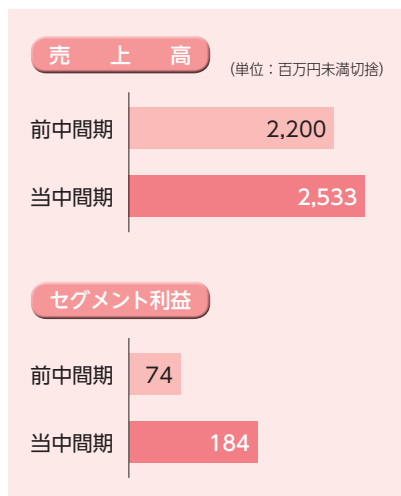
海外においても世界の自動車業界の好調を受け、アルミニウム用ろう材ペーストの販売が増加しました。

その結果、当部門の売上高は25億3千3百万円で、前中間期に比べ3億3千3百万円（15.1%）の増収となりました。セグメント利益は1億8千4百万円と前中間期に比べ1億1千万円（148.9%）の増益となりました。

製紙用薬品事業カンパニー



電子材料事業カンパニー



■ ハリマ化成グループのグローバルネットワーク



事業の紹介

樹脂化成品

印刷インキ用樹脂、塗料用樹脂、粘接着剤用樹脂、合成ゴムなどに求められるさまざまな機能と性能を実現するために、豊富な技術と経験を活かした各種製品を取り揃えています。

- ・ハリマ化成株式会社
- ・ハリマエムアイディ株式会社
- ・ハリマ化成ポリマー株式会社
- ・Harima do Brasil Industria Quimica Ltda.
- ・南寧哈利瑪化工有限公司
- ・信宜日紅樹脂化工有限公司
- ・信宜中林松香有限公司
- ・岑溪東林松香有限公司
- ・Lawter 各社

製紙用薬品

インクのにじみを防止するサイズ剤や、紙の強度を高める紙力増強剤、紙の表面を改質する塗工剤などの薬品を提供するとともに、紙のリサイクル率を高める薬品の開発などにも積極的に取り組んでいます。

- ・ハリマ化成株式会社
- ・Plasmine Technology, Inc.
- ・Harima do Brasil Industria Quimica Ltda.
- ・杭州杭化哈利瑪化工有限公司
- ・東莞市杭化哈利瑪造紙化學品有限公司



電子材料

はんだや、電子回路の形成工程に使用される導電性ペーストなどの開発、製造販売を行っています。「クリーン(環境) & ファイン(小型・高機能化)」をコンセプトに、お客様への価値提案を実践しています。

- ・ハリマ化成株式会社
- ・株式会社日本フィラーメタルズ
- ・Harimatec Inc.
- ・Harimatec Malaysia Sdn. Bhd.
- ・Harimatec Czech,s.r.o.
- ・杭州哈利瑪電材技術有限公司

その他

ハリマ化成商事株式会社が不動産事業を、株式会社セブンリバーが業務用洗剤事業を行っています。

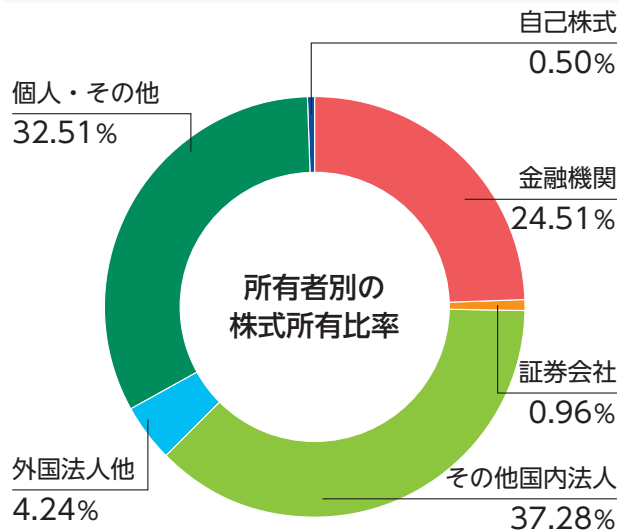
- ・ハリマ化成商事株式会社
- ・株式会社セブンリバー

■ 株式および株主の状況 (2013年9月30日現在)

株式の状況

発行可能株式総数	59,500,000株
発行済株式の総数 (自己株式131,342株含む)	26,080,396株
株主数	2,911名

株式の分布状況



大株主（上位10名）

株主名	持株数(千株)	持株比率(%)
長谷川興産株式会社	4,558	17.56
長谷川 吉弘	1,738	6.69
株式会社三井住友銀行	1,094	4.21
ハリマ化成共栄会	960	3.69
公益財団法人松籟科学技術振興財団	805	3.10
株式会社みなと銀行	692	2.66
有限会社松籟	687	2.64
京阪神興業株式会社	672	2.58
兵庫県信用農業協同組合連合会	668	2.57
株式会社三菱東京UFJ銀行	476	1.83

- 注) 1. 持株数は千株未満を切り捨てて表示しております。
 2. 持株比率は発行済株式の総数から自己株式(131,342株)を減じた株式数(25,949,054株)を基準に算出し、小数点第3位以下を切り捨てて表示しております。

会社概要

設立 1947年11月18日

資本金 100億1,295万円

東京本社 東京都中央区日本橋3丁目8番4号

従業員数 57名 (連結1,532名)

グループ社数 37社

事業内容 持株会社としてのグループ経営戦略の策定・推進、樹脂・化成品、製紙用薬品、電子材料事業を主とする各事業会社の経営管理

中間配当金のお支払いについて

第72期中間配当金は、同封の「中間配当金領収証」によりお支払いいたしますので、払い渡しの期間(2013年12月3日から2014年1月10日まで)に最寄りのゆうちょ銀行全国本支店および出張所ならびに郵便局(銀行代理業者)でお受取りください。

なお、振込先をご指定の方には、「中間配当金計算書」および「配当金振込先のご確認について」を同封いたしましたので、ご確認ください。

役員

代表取締役社長	はせがわ	よしひろ
	長谷川 吉 弘	
専務取締役	まきの	おのぶ
	牧 野 信 夫	
常務取締役	こうの	まさなお
	河 野 政 直	
常務取締役	かねしろ	てるお
	金 城 照 夫	
常務取締役	いなば	まさし
	稻 葉 正 志	
取締役	いわさ	さとる
	岩 佐 哲	
取締役	まつば	よりしげ
	松 葉 頼 重	
取締役	みずたに	やすひろ
	水 谷 安 裕	
取締役	まつだ	よしのぶ
	松 田 幸 信	
取締役	きよの	みつのり
	清 野 光 則	
取締役	つちだ	ふみあき
	土 田 史 明	
取締役	たになか	いちろう
	谷 中 一 朗	
常勤監査役	たなか	じょういちろう
	田 中 饒 一 良	
*監査役	みちが	たつや
	道 上 達 也	
*監査役	ひらまつ	ひでのり
	平 松 秀 則	

*印は、社外監査役であります。

株主メモ

事業年度	4月1日から翌年3月31日まで		
定時株主総会	毎年6月		
基準日	期末配当金	毎年3月31日	
	中間配当金	毎年9月30日	
上場取引所	東京証券取引所 (証券コード4410)		
単元株式数	100株		
公告方法	電子公告により行います。 (http://www.harima.co.jp/) ただし、やむを得ない事由によって電子公告によることができない場合は、日本経済新聞に掲載いたします。		
株主名簿管理人	三菱UFJ信託銀行株式会社 特別口座の口座管理機関		
同連絡先	三菱UFJ信託銀行株式会社 大阪証券代行部 〒541-8502 大阪府大阪市中央区伏見町3丁目6番3号 ☎ 0120-094-777 (通話料無料)		

【ご注意】

1. 株主様の住所変更、買取請求その他各種お手続きにつきましては、口座を開設されている口座管理機関（証券会社等）で承ることとなっておりますので、口座を開設されている証券会社等にお問い合わせください。株主名簿管理人（三菱UFJ信託銀行）ではお取り扱いできませんのでご注意ください。
2. 特別口座に記録された株式に関する各種お手続きにつきましては、三菱UFJ信託銀行が口座管理機関となっておりますので、左記特別口座の口座管理機関（三菱UFJ信託銀行）にお問い合わせください。なお、三菱UFJ信託銀行全国各支店にてもお取り次ぎいたします。
3. 未受領の配当金につきましては、三菱UFJ信託銀行本支店でお支払いいたします。

ハリマ化成グループ株式会社

東京本社 〒103-0027 東京都中央区日本橋3丁目8-4
Tel. 03-5205-3080

大阪本社 〒541-0042 大阪府大阪市中央区今橋4丁目4-7
Tel. 06-6201-2461



この報告書は、環境に配慮し、植物油インキを使用しております。
また、印刷はアルカリ性脱色液を出さず、イソプロピルアルコールなどを含む湿し水が不要な「水なし印刷方式」を採用しています。

使用されている用紙は、適切に管理された森林からの生産物です。適切に管理された森林とはForest Stewardship Council®（森林管理協議会）の規定に従い、独立した機関により認証された森林を指します。